

(10) 会計学教育における学士力の考察

会計学教育FD/IT活用研究委員会は、21年7月、8月、10月、11月の4回開催した。会計学分野では、会計学を教養として学ぶ学生を対象とした一般レベル、会計学の高度な活用を必要とする学生を対象とした専門レベルに分けて検討を行った。一般レベルでは、会計情報の特徴や作成プロセスを理解し、財務諸表を読み取る力に重点を置いた。専門レベルでは、会計情報の作成、伝達、問題発見・解決に向けた意思決定に取り組むことができる力を目指した。その上で、サイバーFD研究員178人に意見を求め、20人(11%)の意見を踏まえて、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

※ 一般レベル：会計学を教養として学ぶ学生を対象とした水準

※ 専門レベル：会計学の高度な活用を必要とする専攻分野の学生を対象とした水準

【到達目標1】<一般レベル>

会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。

【到達度】

- ① 会計の対象、目的、機能を理解している。
- ② 企業会計の一巡過程を理解している。
- ③ 会計情報の読み方を理解している。

【到達目標2】<専門レベル>

組織活動の財やサービスを計数的に測定し、伝達できる。

【到達度】

- ① 複式簿記の原理を説明できる。
- ② 財務諸表の意義・特徴を説明できる。
- ③ 財務会計の必要性と内容を説明できる。
- ④ 管理会計の必要性と内容を説明できる。
- ⑤ 会計情報システムの概念、データベースなどを説明できる。

【到達目標3】<専門レベル>

組織の経済活動の実態を会計情報として体系的に把握し、問題発見ができる。

【到達度】

- ① 情報開示制度を理解し、利用できる。
- ② 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。
- ③ 原価分析の手法を活用し、原価管理上の問題を発見できる。
- ④ 企業の価値を評価し、問題を発見できる。

【到達目標4】<専門レベル>

会計情報の有用性を理解し、問題解決や意思決定に応用できる。

【到達度】

- ① 会計情報を利用して投資意思決定の支援ができる。
- ② 管理会計情報を利用して戦略の実行、経営資源の最適利用などの支援ができる。
- ③ 会計情報の有用性を保証するために会計監査の手続きを説明できる。
- ④ 公会計、環境会計、国際会計、税務会計の特徴や内容(構造)を説明できる。
- ⑤ 国際財務報告基準(IFRS)が企業経営に(会計情報に)与える影響について説明できる。
- ⑥ 会計倫理の重要性について事例を用いながら説明できる。

(10) 会計学教育における情報教育

会計学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめの後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討では、情報の検索・収集と情報の信頼性、情報倫理の理解、会計情報システムによる財務諸表作成、表計算ソフトなど会計専門ソフトによる財務分析の演習、内部統制など会計情報の信頼性担保の仕組みなどをとりあげた。

【到達目標1】

情報通信技術を用いて適切な会計情報の収集・整理ができる。

【到達度】

- ① 情報検索・収集・整理に必要な情報処理技能を身につけている。
- ② 意思決定に有用な会計情報の所在・構成・背景を知っている。
- ③ 会計情報の信頼性が重要であることを理解している。

【教育内容・教育方法】

- ①は、初年次教育、共通教育などで培った基礎的なスキルを会計学の授業に応じて使用させ、表計算ソフトなどの利用のレベルアップを図る。
- ②は、インターネット、EDINETや各企業のWebサイト、Yahooファイナンス等から情報収集させる。
- ③は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、プレゼンテーション、レポート、小テストで理解度を確認する。

【到達目標2】

コンピュータを活用して会計情報を作成できる。

【到達度】

- ① 会計情報システムの仕組みを理解している。
- ② 会計情報システムにデータ入力ができる。
- ③ 会計情報システムを用いて財務諸表を作成できる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、会計情報システム(AIS)の特徴を理解させるために、入力データとアウトプットとの関係を理解させる。
- ②は、データの入力処理を手書き処理とPC処理と比較させて確認させる。
- ③は、入力されたデータが財務諸表にどのように反映したかを確認させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、レポート、ディスカッションなどで理解度を確認する。

【到達目標3】

情報通信技術を活用して、会計情報の分析・表現ができる。

【到達度】

- ① 情報通信技術を活用してデータを分析できる。
- ② 分析結果の報告に情報通信技術を活用できる。
- ③ 会計情報の信頼性担保の仕組みを理解できる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、表計算ソフト、XBRLなどを利用した財務分析の演習を行う。
- ②は、演習、グループディスカッションなどでアプリケーションソフトを用いてプレゼンテーションさせる。
- ③は、講義で内部統制やシステム監査などに触れる。

【到達度確認の測定手段】

- ①と②は、プレゼンテーション、レポート、小テストで理解度を確認する。
- ③は、小テストなどで確認する。